

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472800265	事業の開始年月日	平成12年4月18日
		指定年月日	平成12年3月28日
法人名	医療法人社団 厚仁会		
事業所名	グループホームおおね		
所在地	(〒257-0003) 神奈川県秦野市南矢名 2-12-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成28年8月30日	評価結果 市町村受理日	平成29年3月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ご利用者様のこれまでの生活習慣を尊重し、それぞれが得意としてきたことや行ってきたことを出来るだけ続けて頂けるよう日々の生活の中に取り入れ、穏やかでいつも笑顔で安心して暮らしていける環境を作り出せるよう職員全体で取り組んでいる。</p> <p>天気の良いときは散歩や買い物など出来るだけ屋外に出るようにし、お花見やドライブ、クリスマス会など行い、その季節を感じたり、楽しんだりして頂けるよう努めている。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成28年9月20日	評価機関 評価決定日	平成28年11月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 グループホームおおねは、小田急小田原線、東海大学前駅から徒歩5分、東海大学通学路沿いにある。同法人が運営する秦野厚生病院に隣接し、介護老人保健施設「ぬくもりの家」の2階に併設されている。駅に近いという利便性に加え、周辺にはスーパーマーケットやドラッグストア、各種商店が点在し、買い物にも便利である。ホームのフロアは広々としており、廊下も車いす同士がすれ違えるほどの幅がある。カウンターキッチンには2つのシンクがあり、利用者や職員が複数人で使用することが可能である。また、そこからリビングダイニング全体を見渡すことができる。居室も10畳ほどと広く、トイレ、洗面台、電話が備えられている。浴室にはリフトが装備され、重度の利用者の入浴を可能にしている。搬送用ベッド対応のエレベーターと車いす対応のエレベーターがそれぞれ1基、設置されている。</p> <p>【利用者と職員が共に支えあう日常生活】 職員は利用者を介護される一方の立場に置かず、入居前の生活習慣を尊重し、日常生活の中に利用者の役割を見出し、共に支えあう日常生活作りに取り組んでいる。特に食事においては、皆で献立を考えることから始め、下ごしらえ、調理、盛り付け、後片付けまで、利用者と職員が共同で行っている。訪問時も、白和えの豆腐をつぶす方、一口カツの衣を付ける方など、それぞれの受け持ちを、現役の主婦さながらにこなす利用者の姿を見ることができた。包丁を握ることのできる利用者も数名おり、下ごしらえの役割を担っている。食事後は、利用者個々に下膳し、食器を洗うことが習慣になっている。男性利用者も非常に協力的であり、職員の方まで食器を洗う方もいる。また季節ごとに、らっきょ漬け、梅干し、干し柿、白菜漬けなど、食卓に上がるものを利用者と職員が共同で作ることを楽しみの一つにしている。</p> <p>その他、市主催の福祉フェスティバルへの出品作をはじめとする作品作り、法人敷地内の公園での花の世話、洗濯物たたみ、掃除など、利用者と職員が協力して行う事柄を日常生活に多く取り入れている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームおおね
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会の中で自立とふれあいを大切に豊かに明るく健やかに暮らせることを理念に掲げている。日々の申し送りの中で話し合いを持ち共有・実践に努めている。	「高齢者が地域社会の中で自立とふれあいを大切に豊かで明るく健やかに暮らせること」を理念に掲げている。申し送りやカンファレンスなどで常に理念に立ち戻り、介護現場での実践に結び付けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りやどんど焼き、市主催のセンターフェスティバルに参加したり、ご近所の方の家の庭で果物やお花を頂いたりしている。事業所内の公園は散歩や地域の方の憩いの場として使われている。	法人として自治会に加入し、夏祭りやどんど焼きに参加している。市主催の福祉フェスティバルへは作品を出品し、見学に出掛けている。近隣の住民から花をもらったり、庭を見せてもらったりしている。介護老人保健施設にフラダンス、楽器演奏、日本舞踊などのボランティアが来訪した際に一緒に楽しんでいる。	地域とのつきあいは良好です。今後さらに外部資源の利用なども考慮し、範囲を広げて行くことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加したり、日々の散歩や事業所内の公園にて花を植えたり草取りをしたりしながら、地域の方々に発信している。大学のゼミ学生のヒアリングに協力したりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回行っている。年間の活動計画や、日々の活動や近況報告を行い、利用者や家族、地域の代表者からの意見や質問、要望などは職員間で話し合い、サービス向上に活かしている。	家族、利用者、市職員、地域包括支援センター職員、地域の代表者参加の下、2ヶ月に1度開催している。事業所の運営報告、利用者の状況報告、質疑応答などが行われている。参加メンバーの発言も活発で、事業所と地域の双方向の会議となっている。	

5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>毎月の入居者連絡票の送付や運営推進会議時、来所する担当者と意見の交換をしたり情報を共有したり出来ている。</p>	<p>市の高齢福祉課へは、毎月入居者状況を報告している。市の福祉フェスティバルには、準備段階から参画している。管理者は要介護認定更新の機会に市役所へ訪問し、担当者と情報交換している。市外の入所希望者に対し、市間の調整を行い、入所に至った事例がある。</p>	
---	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で行われている勉強会に参加し、身体拘束に該当する行為を学び・周知し、拘束しない支援に努めている。エレベーターは夜間帯・非常階段は安全のため施錠している。	契約書や運営規定に身体的拘束やその他の行動制限を行わないことを明記し、実践している。法人主催の勉強会に職員が参加している。階段出入り口は家族の希望もあり安全確保のため施錠している。エレベーターは日中、自由に使用できるが、2階しか開かない設定になっている。出たいそぶりの利用者に対しては、付き添って外に出るなどの対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人内で行われている勉強会に参加している。申し送り等で言葉使いや排泄介助時の対応について話し合い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様のご家族からの相談は管理者が対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時より利用者及び家族からの問い合わせには管理者より説明行いご理解頂けるよう心掛けている。契約の際は契約書及び重要事項説明書等で説明し、ご理解を頂けるように努めている。		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>法人内に意見箱を設置し担当者を明記している。運営推進会議にて意見や要望を聞き、対応している。また、利用者や家族からの日常生活での要望や不安な点は都度職員が対応し、対応できない場合は後日管理者が対応する。</p>	<p>家族の来訪時には、管理者、職員が意見や要望を引き出すようにしている。年4回、機関紙「紙ふうせん」を発行すると共に、毎月、利用者の近況を記した便りを家族に送付し、コミュニケーションを図っている。意見箱も設置されている。</p>	
----	---	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回行われているカンファレンスにて管理者や法人担当者に職員の意見や要望を聞く機会を作り、行事や介護方針などの提案があり、運営に反映させている。また、日々の申し送りで出た意見や要望は必要時管理者より代表者に報告している。	月1回のカンファレンスや申し送り時に職員の意見を聴取している。イベントやレクリエーションは職員主体で企画し、実施している。常勤職員は、年1回、管理者との面談が行われている。職員の提案によりミキサー食用の高性能ミキサーが購入された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格給や能力給を設け、職員の資格取得やケアの向上に努めている。3～4日の希望給を取り入れたり、労働時間内に業務が終えるように業務内容を調整したり職員が働きやすい環境を整えるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの希望や力量に応じて、法人内外の研修や他グループホームとの相互研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣事業所との協議会を持ち、情報交換や相互研修としてお互いの事業所を訪問して職員の交流や質の向上に努めている。秦野市で行われている福祉フェスティバルに参加し、市内の他のグループホームの職員との交流する機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設内の見学や管理者との面談を行い、疑問や不安、要望等を聞く機会を設けている。必要に応じてお茶や食事など体験入所を勧め、ホームの雰囲気を知って頂く機会を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階により本人や家族が不安に思っていることや訴えに対し納得して頂けるまで何度でも聞き取り、サービスに反映出来るよう対話を通して信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現時点で利用者が必要としているサービスについて家族・本人と話し合い、支援の調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の体調や行動を考慮し、毎日の家事の仕事、料理の手伝いや洗濯物畳み・干し、レクリエーションに参加して頂いている。人生の先輩であることを常に思い、笑顔で会話が弾むような声掛けや誘導を心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手紙にて近況をお知らせしている。来所時には廊下や居室に飾ってある写真など見ながら日常の生活の様子をお話し、本人の状況を共有出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人が来所した際は心地良い時間を過ごせるよう環境を整えたり、調整を行っている。家族や希望者には事業所の機関誌を年4回送付したり、年賀状を送ったりしている。また、居室に電話を設置している。	友人の来訪の際は、居室にお茶だしなどをして、ゆっくり過ごしてもらっている。居室には電話が設置され、いつでも掛けることができる。家族の手を借りて戦没者慰霊祭に参加する利用者もいる。事業所を新たな生活基盤とし、地域住民との触れ合いを通して、新たな馴染みの関係を築いている利用者が多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事の手伝い、季節の行事などを通して利用者同士若い頃の話や出身地の思い出等を語り合いながら利用者同士の関わり合いを深め、お互い支えあいえるような関係を築けるよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族や関係者などから契約が終了した後の本人や家族について相談があった時は、必要に応じて話し合いの機会を持つよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人がやりたいこと、してほしいことをその都度聞きながら職員間で話し合い、実現できるよう努めている。意思の疎通が困難な方には家族からの意見や普段の行動を観察し、意向を汲み取るよう職員間で検討し、支援している。	日々の生活や会話の中で、利用者の意向の把握に努め、出来るだけ沿えるように努めている。意向を表すことが困難な利用者については、行動から読み取るなど意向の把握に努めている。家族の意見を聞くこともある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはご家族や本人から今までの生活歴などをお聞きし、職員間で情報を共有している。また、家族の面会や本人との日々の会話の中から生活過程の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	特記事項表や個人記録表にてバイタルや食事摂取量・一日の過ごし方や本人の様子など記録し、職員間の情報の共有や現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と今後の暮らしの希望や要望、本人の課題など話し合い、介護計画に反映している。必要に応じて医師や看護師の意見を取り入れている。	月1度モニタリングを実施し、状態に変化が生じた場合はその都度、安定している利用者は、1年ごとに介護計画書の見直しを実施している。見直しに合わせアセスメントも実施し直している。職員や医師、看護師などの意見を取り入れた計画書になっている。		

27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録表にて水分・食事摂取状況、体重・血圧、与薬状況、日々の状態等を記入し、情報共有している。また、特記事項表にて日々の様子や状態を分かりやすくし、介護計画の見直しに活かしている。		
----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	OTやデイケア、管理栄養士等法人内のスタッフを利用してサービスに対する助言を得たり、幅広い支援を出来るよう努めている。また、利用者の個別の要望に応えられるよう対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや催しに参加したり、近辺への散歩の折、近所の方々と気軽に挨拶したり馴染みのお宅に立ち寄りさせて頂いたりして地域の方々との交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回法人内の病院にて主治医による内科受診がある。必要時、他科受診を行えるようご家族の協力を得ながら支援している。	隣接する同一法人の病院内科医による診療が月1回実施されている。緊急時も同病院の医師及び看護師の協力を得ることができる。その他の専門医などへの通院は、家族が対応することを原則としている。同病院に週1回、訪問歯科医が来訪しており、受診することができる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご本人の日々の状態を観察し、異常時には法人内の病院や老健の看護師に相談し、受診や処置が受けられるよう支援している。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した場合は施設での情報は管理者が必要な情報を提供する。入院後は家族や病院関係者と情報交換しながら本人の現状を把握し、早期の退院に向けて事業所内で対応ができるよう努めている。</p>		
----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、事業所では看取りは行っていない事や、重度化した際の対応について、退去の時期や目安について、入居契約時より説明行っている。重度化した際、医師や管理者からご家族に説明を行い、ご本人の状況に合う環境を提案している。	事業所では看取りを行わない方針であり、入居前に利用者、家族に説明し、方針を共有している。重度化への対応が必要となった場合は、医師を交え、家族、関係者で協議し、利用者、家族にとって、より良い選択をしていく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、事業所内に掲示し、周知している。法人内で定期的に勉強会があり、職員が参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で年2回の避難訓練と消防訓練を行い、避難経路の確認や災害時の対応の訓練を行っている。今年はグループホームの台所が火元として訓練を行っている。	法人の消防計画に基づき、法人全体で年2回の防災訓練を行っている。夜間想定訓練も実施している。法人の備蓄庫に、非常食、飲料水など3日分を確保している。建屋内に非常電源装置を備えており、停電時においても電気の供給が可能である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴の介助などご本人が恥ずかしいと感じやすいような場面では周りの方に気付かれぬような言葉掛けや介助を行い、ご本人のプライバシーと羞恥心に配慮して対応するよう心掛けている	トイレ誘導時などは、直接的表現は避け、「居室の確認」などと言い変え、羞恥心に配慮している。職員間の打ち合わせにおいては、個人名を使わず、部屋番号などで代用し、プライバシーの保護に努めている。個人情報に係わる書類は、施錠保管できるところに収納している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話や行動の中から利用者が自分の意思や希望を表現しやすいような環境を作り出すようにしたり言葉かけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	会話の中から利用者の要望・希望をとらえ、出来る限りお手伝い出来るよう努めている。また、自分の意思を発言出来ない方でも表情や態度などから本人の意思に近づけるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装や、洋服・下着などその時々合ったものを用意し自分でも選択出来るように声掛け、用意している。整髪は家族の付き添いをお願いしているが、定期的に近所の美容師に来所してもらい、散髪を行っている。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事のメニューや好みなど利用者と相談し、調理の下準備や盛り付け、食器の片づけなど一緒に手伝って頂くことで食事を通して皆で一緒に生活しているという実感、喜びを持ってもらえるようにしている。誕生日や祝日などは行事食を作ってお祝いをしている。</p>	<p>食事作りは、利用者と職員が共同で行っている。職員も利用者と同じテーブルに付き、同じものを食べている。誕生日や祝祭日のイベント食も楽しんでいる。ファミリーレストランでの外食、お寿司のテイクアウトなども利用している。</p>	
----	----	---	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとに食事・水分摂取量、カロリー計算の記録を行っている。各利用者の嗜好や状態に応じて食事の形態や調理法を変えたり、摂取量が少ない方には補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯みがきの声掛け、見守りを行い、必要時に介助を行っている。義歯は夕食後洗浄剤にて殺菌洗浄を行い、歯ブラシは昼食後熱湯消毒し日光乾燥を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の日々の動きや行動の観察、排泄の時間や回数を個人記録表に記録し、トイレへの誘導・介助を行い、トイレでの排泄の支援に活かしている。	排せつ介助が必要な利用者は個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。夜間もトイレ誘導を基本としているが利用者の体調などにより、睡眠を優先する場合はおむつを使用することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体操や廊下歩行、散歩等で体を動かすように心掛けている。食事は野菜・水分等を多く摂るようにしている。各自排泄量を記録し、必要に応じて便秘薬を服用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の曜日は決まっているが、希望する時間や順番を聞きながら対応している。自立されている利用者の入浴では職員は立ち入り過ぎずマイペースで入浴出来るよう努めている。介助の必要な利用者は浴室内のプライバシーを守りつつ洗身・洗髪等の支援をしている。	入浴は原則として週3回、午前の時間帯で行っているが、回数、時間帯は希望により柔軟に対応している。入浴を好まない利用者には、機嫌のよい時間を見つけ、相性の良い職員が対応している。季節の菖蒲湯、柚子湯なども楽しんでいる。浴室にはリフトが装備され、現在1名の利用者が使用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望や季節を考慮して快適に過ごして頂けるように室温や光量、音調や寝具調整等を行う。寝具は1回は洗濯し清潔を保ち、安心して気持ちよく休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬リスト集にて利用者ごとの服薬情報を把握している。処方薬の変更の際は受診ノートや申し送りを通して各自周知するよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意とする事を活かして日常生活のお手伝い（野菜の下ごしらえや盛り付けなど台所のお手伝いや洗濯物の片づけ、裁縫など）や、昔から好きだったこと（歌や塗り絵、生け花など）を行い、張り合いや喜びを感じる日々を過ごせるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望をお聞きし、散歩に行ったり、買い物付き添いを行っている。年中行事として花見や外食などドライブに出掛けたりしている。家族や友人の誘いで外出する事もある。	車いすの利用者も含め、天候が良い日は、毎日散歩や買い物を楽しんでいる。法人敷地内の公園で一休みして帰ることが日課になっている。初詣、花見、外食など車で出かける機会も多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望される方には、家族と相談し、自己管理してもらっている。買い物の希望がある時は本人と一緒に出掛けたり、職員が買って来て本人に渡す事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室に電話を設置しており、いつでも使用できるようにしており、自ら電話が出来ない方は職員が支援している。家族や友人からの手紙を取り次いだり年賀状など書ける方には書いて頂くよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下に季節の花を飾ったり、外出時や日頃の写真、作品を掲示し皆で見楽しんで、家族の来所時に日常の様子が分かるようにしている。廊下や通路は車椅子で通れるように整理している。暖色系の照明を使用し、室温調整を行い心地よく過ごして頂けるよう努めている。	リビングダイニングは広々としており、採光が良く明るい。桜、月見、ハロウィンなどをテーマとした利用者と職員の共同作品が飾られている。廊下には行事の写真や習字、塗り絵などを掲示している。テーブルには生花が飾られ季節感を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や玄関前にソファを置き、一人の時間を過ごしたり、利用者同士やご家族、知人の方と過ごしたり、それぞれが自由に利用できるような場所を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人が長年利用されていた家具や寝具などを持ち込んで頂いたり、テーブルや壁には誕生祝いの写真立てや壁飾りが飾られていて穏やかに過ごせるよう心掛けている。	居室は10畳ほどと広く、トイレ、洗面台、電話が備えられている。利用者は、馴染みのものを持ち込み、職員手作りの誕生祝品を飾り、居心地良く暮らせる空間としている。二人部屋が1室ある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで各居室にトイレ、流し台、空調設置し、廊下に手すりを取り付けてある。トイレや居室に分かりやすいように目印を付けたり、スケジュール表を貼りご自身で判断が出来やすいようにしている。		



目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームおおね

作成日 2017年 3月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	12	利用者の重度化や看取りに対しての知識や対応の仕方が職員間で共有出来ていない。	重度化した際の対応の仕方や看取りのマニュアルを作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内研修に参加し、職員間で情報を共有する。 ・ホーム内カンファレンスにて看取りに対する職員の意見を集約していく。 	12か月
2	2	地域との連携やボランティアなど外部との交流が少ない。	地域で行われている行事に参加する。ボランティアとの交流する機会を作る。	<ul style="list-style-type: none"> 自治会の行事や防災訓練など地域の活動に参加する。 法人内とのボランティアの活用情報を共有し、参加する。 	12か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。